

三歳児の発達に即した器楽合奏の編曲

桂山 たかみ 松本 亜香里 山崎 めぐみ

要旨

子どもは音楽に合わせて身体を動かしたり，音楽にかかわったりする活動を好む．保育活動の中でも行事や日常において歌唱やうたあそび，リトミック，合奏など，様々なかたちで用いられる．歌唱やうたあそび，リトミックが譜面上でいう横の流れが重要であることに対し，合奏は二人以上で合わせることから，縦の刻み（拍）が重要となる．幼児の合奏曲を選ぶ際，初期はリズム打ち（打楽器），その次に旋律が加わる．

本資料では，三歳児に対し，打楽器合奏を指導する際，発達段階を考慮し編曲を行うこととする．楽器は子どもが一人ひとつ所有しているカスタネットを使用する．なお，本資料作成にあたり，桂山が編曲および指導方法の発案をし，山崎が採譜を，松本がとりまとめを行った．

キーワード：合奏，編曲，発達

1. 編曲にあたって

1.1. リズムの体得

リズム打ちの初期段階としては，四分音符と四分休符の組み合わせ（タン・ウン）から入り，四分音符と八分音符（タン・タ・タ），それに八分休符（タ・

タ・タ・ウ)などを加えていく。多様な音価を組み合わせることで、最終的には十六分音符や十六分休符まで三歳児もできるようになる。ただし当然のことながら、「四分音符の四分の一」または「0.25拍」という指導では幼児には伝わらない。そのため本資料年少児レベル2パートにおける「フナッコー」(8～19小節目)のように、言葉のリズムを利用し幼児に伝えることでリズムの体得へとつながる。また、年少児に対しては「待つ」指導を避けるために休符の使用を避けることが時々見受けられるが、本資料のようにまずは体を使って「待つ」ことを覚え、休符の体得へとつながられる。

1.2. ソーラン節

江戸時代から昭和初期にかけて北海道の日本海沿岸では鯨漁が盛んであった。鯨漁の際、「鯨場作業唄」が唄われた。この作業唄は「船漕ぎ音頭」・「網起こし音頭」・「沖揚げ音頭」・「子叩き音頭」の四部から構成される。ソーラン節は「鯨場作業唄」の一節、「沖揚げ音頭」から独自に変化したものである。音頭の際の囃し言葉「ソーラン」から「ソーラン節」と呼ばれるようになった。

ソーラン節

(カスタネットのみ使用)

注…カスタネットは左手につける

年少 (レベル 1)

ひざをおとして
下の方でポンと
カスタネットを
たたく

ふねをこぎように
グイッとひく

年少 (レベル 2)

左右の手を
右肩の上に持っていき
カスタネットをうつ

先生用
大太鼓

ひざをおとして
下の方でポンと
カスタネットを
たたく

左うでをのばし
右手で肩のあたりを
カスタネット
でポンとうつ

年少 (レベル 1)

ここからは、うたいながら うごきましょう

ハイ ハイ

グー ウット

年少 (レベル 2)

ハイ ハイ

フ ナツ コー

先生用
大太鼓

かがんで
手はグー
ふねをこぎ
しぐさをする

上体をおこして
両手を右肩あたりに
もっていき、
カスタネットを
「フナッコー」の
リズムでならす

ドン

注…フナッコーとは舟を漕ぐ子どものことである

※ 先生の「ドン」という音と声で
子どもの動きをあらわす

年少 (レベル1)	こいで	グー ウット	こいで	グー ウット
年少 (レベル2)	フ ナッ コー	フ ナッ コー	フ ナッ コー	フ ナッ コー

先生用
大太鼓

ドン

年少 (レベル1)	こいで	グー ウット	こいで	グー ウット
年少 (レベル2)	フ ナッ コー	フ ナッ コー	フ ナッ コー	フ ナッ コー

年少
(レベル1)

こいで ゲー ウット こいで

年少
(レベル2)

フ ナッ コー フ ナッ コー フ ナッ コー

先生用
大太鼓

ドン

ここからは、**A B**
チーム

年少
(レベル1)

ハー ドッコイ ショー ドッコイ ショー ヤー レン

年少
(レベル2)

ハー ドッコイ ショー ドッコイ ショー ヤー レン

先生用
大太鼓

ハー ドッコイ ショー ドッコイ ショー ヤー レン

うたいながら、左手は
カスタネットを表示してある
リズムでならす

ひざをおとして
表示してあるリズムで
うたいながら
カスタネットをたたく

太鼓のフチを
両手のパチでならす

年少
(レベル1)

年少
(レベル2)

先生用
大太鼓

ソー ラン ヤー レン ソー ラン ヤー レン

上体をそらして
胸の前で、うたいながら
表示してあるリズムで
カスタネットをならす

年少
(レベル1)

年少
(レベル2)

先生用
大太鼓

ソー ラン ヤー レン エイ エイ ヤー

さいごは、ヤーといいながら
顔の横でカスタネットを
ならす

The materials of early childhood education
**Arrange of instrumental ensemble in line
with the development of three-year-olds**

Takami Katsurayama, Akari Matsumoto and
Megumi Yamazaki

Summary (Abstract)

Children like moving their body with music and activities related with. In childcare activities, music is utilized in various styles such as singing, eurhythmics, and ensemble at an event or daily life. In singing and eurhythmics, melody on the score is important. On the other hand, in ensemble, vertical rhythm is important because more than two children play in ensemble. When choosing a song for ensemble, it should be a song for beat time to the music at first, and then melody added as a next step.

In this materials, we arrange instrumental ensemble in line with the development of three-year-olds.

Key Words : ensemble, arrangement,
development